

到達度凡例	
平成24年度比	矢印
目標値超	↑
上昇	↗
維持	→
下降	↘

第2次食の安全安心・食育推進計画成果指標一覧（市民アンケート速報値）
（食の安全安心の確保分野）

①②③④は「不安を感じる市民の割合」のため、値が下がるほど目標値達成に近づくという評価になる

No.	項目	H24 基準値	H27 中間値	H30 速報値	H30 目標値	到達度 (H24比)	評価
①	「残留農薬」について不安を感じる市民の割合	55.7%	44.4%	49.7%	※40% (50%)	↗	H24年度比で6%不安感は下がり、2次計画策定時の目標値（50%）には到達しているが、H27年度に再設定した目標値（40%）には達していない。
②	「食品添加物」について不安を感じる市民の割合	63.3%	54.1%	55.9%	※40% (50%)	↗	H24年度比で7.4%不安感は下がったが、目標値には達していない。
③	「食品の不正（偽装）表示」について不安を感じる市民の割合	51.6%	55.3%	45.4%	40%	↗	H24年度比で6.2%不安感は下がったが、目標値には達していない。
④	「輸入食品」について不安を感じる市民の割合	65.2%	56.6%	56.4%	※40% (50%)	↗	H24年度比で8.8%不安感は下がったが、目標値には達していない。
⑤ (廃止)	食品の安全性や食品衛生に関する活動に参加している市民の割合	8.9%	6.5%	6.8%	15%	↘	H24年度比で活動に参加している市民の割合は2.1%下がった。この項目は、食品の安全性や食品衛生に関するイベントや講習会に年に数回以上参加している市民の割合の数値であるが、実際行政が企画できるイベント等の回数は限られており、H28、29年度の推進会議部会でご意見を頂き、この成果指標は3次計画では廃止する予定である。
⑥ (変更)	食品を購入するたびに表示を確認している市民の割合	40.2%	42.3%	32.0%	55%	↘	H24年度比で8.2%下がった。これは、食品を購入する際に表示を「毎回確認している」市民の割合であり、値が高くなることを目標としているが、実は販売されている食品に「安心感」があるために「表示をあまり確認していない」可能性もあり、評価が難しい。しかしながら、安全確保の面では、期限やアレルギー表示など購入時に確認することは大事なため、「時々確認している」「毎回確認している」市民の割合として3次計画でも成果指標とする。
⑦	食品について安全性が高まってきていると感じている市民の割合	—	59.1%	59.5%	※65% (50%)	↗ (H27比)	2次計画から設定した成果指標であり、目標値を50%としていたが、H27年度の中間評価で既に目標値に達したため、目標値を再設定（65%）した。H27年度比で0.4%上がったがまだ目標値には達していない。
⑧	食事・食品等に関する正しい知識や情報を得ようと努めている市民の割合	—	61.3%	61.0%	75%	↘ (H27比)	2次計画から設定した成果指標で、H27年度比で0.3%下がり、ほぼ横ばいである。
⑨	食の安全性に関する知識があると思う市民の割合	49.6%	62.6%	50.7%	60%	↗	H24年度比で1.1%上がった。

H30目標値の欄の ※の値は、H27年度の中間評価の際に目標値を上方修正して再設定した値。（ ）内は2次計画策定時の目標値。